

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 8 月 26 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520194

研究課題名（和文）

薄田泣菫文庫の総合的調査および書誌の作成

研究課題名（英文） Comprehensive investigation about the SUSUKIDA Kyukin Collection, and Creation of a bibliography

研究代表者

片山 宏行（KATAYAMA HIROYUKI）

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：60233756

研究成果の概要（和文）：

研究開始当初より、薄田泣菫文庫の資料数は増加したものの、倉敷市、薄田泣菫顕彰会、就実大学吉備地方文化研究所の協力を得て、整理と調査を進めることができた。特に原資料のデジタル化は、資料保存の面からも、また研究の進展のためにも大きな成果であった。資料についても、泣菫とその関係する周辺事項を調査分析しながら研究を行うことで、資料内相互の関連や、これまでの研究とどうつながるかなど、薄田泣菫文庫全体の意義を明らかにし、論文発表や報道機関による発表によって広く周知を図った。

研究成果の概要（英文）：

Although the number of data increased from the time of a research start, we were able to advance arrangement and investigation of data by cooperation of Kurashiki city, The SUSUKIDA Kyukin kensyokai, Research Institute of Kibi Region Culture.

Especially digitization of the source material was a big result also for progress of the research also from the meaning of resource preservation.

By studying material, conducting survey analysis of the circumference matter related to Kyukin, relation mutual, connection with old research, we clarified meaning of the whole the SUSUKIDA Kyukin Collection. And we aimed at common knowledge widely by a paper announcement or the announcement by the press.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |
| 2011年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2012年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学 日本文学

キーワード：薄田泣菫・芥川龍之介・菊池寛・久米正雄・与謝野晶子・大阪毎日新聞

1. 研究開始当初の背景

研究開始にいたる背景には、やや曲折があるので詳述する。平成 19 年（2007）研究代

表者である片山宏行は菊池寛記念館（香川県高松市）館長井下正三氏より、片山が個人的研究対象としている菊池寛の直筆書簡類が岡山県倉敷市役所文化振興課に所蔵されて

いるむね連絡を受け、同年11月に倉敷市の閲覧許可を受け同所へ調査に赴いた。

実見すると資料は菊池寛のみならず明治・大正・昭和に及ぶ多才な作家、文学関係者（詳細は後述）の書簡、原稿など約1000点にのぼる膨大なものであった。これらのほとんどは倉敷市出身の薄田泣菫（本名・淳介、1877~1945）に送付されたもので、それまで保管していた泣菫の遺族がその郷里である倉敷市に寄贈・寄託したものであった。倉敷市ではこれを「薄田泣菫関連資料」（以下、薄田泣菫文庫）として保存していたが、特に一般公開などはせず、その存在は研究者にもほとんど知られていなかった。

泣菫は明治期に詩人として活躍し、ことに『暮笛集』（明治32年）『ゆく春』（明治34年）『二十五弦』（明治38年）などの詩集により日本近代文学史に大きな足跡を残した。また大正・昭和期には小品随筆集『茶話』（大正13年）『艸木虫魚』（昭和4年）等で広い読者層を獲得するとともに、「大阪毎日新聞」の学芸部長として特色ある紙面をつくった。なかでも大正8年（1919）2月、当時新進気鋭の作家として注目を浴びていた芥川龍之介（1892~1927）と菊池寛（1888~1948）を同時に専属作家として入社させ、数々の名作を掲載させた功績は大きい。

上記の調査の際、片山は薄田泣菫文庫のなかに芥川の代表作のひとつである連載小説「邪宗門」（大正7年10月~12月）の直筆原稿の一部と別稿の存在を発見し、その資料性の高さを30社あまりの報道記者を市役所に集め、公表した（2007年12月20日）が、これは各方面に多大な反響を呼び、同日のうちに地方紙を含むほぼ全国の新聞およびテレビ、ネットニュースなどでくりかえし報道された。またこの「別稿」に関する片山の研究報告は「芥川龍之介 新資料紹介——「邪宗門」別稿など——」（『国文学——解釈と教材の研究——』臨時増刊号、第53巻第3号、2008年2月20日p125~131）、「青年作家・芥川龍之介の苦悩——新発見・「邪宗門」別稿——」（『文學界』第62巻第3号、2008年3月1日p174~182）、「影印・芥川龍之介「邪宗門」別稿」（『緑岡詞林』第32号、2008年3月1日p1~23）等に発表され、芥川原稿のみならず、薄田泣菫文庫の存在と重要性が世にあらまねく知られる結果となった。

そこで同文庫の全容解明の気運を受け、倉敷市は片山にその調査を正式に依頼した。しかし、片山があらためて検証してみると、資料は原稿、書簡、日記、ノート類など膨大、多岐にわたっており、その調査・研究はどうして一個人でおこなうのは困難であった。

こうした状況の下、これまで地元で薄田泣菫文学の研究と普及活動を行ってきた薄田泣菫顕彰会（2001年創立）とも協力しつつ、

2009年に、片山を代表者とし、庄司達也、掛野剛史を加えた研究組織を結成し、本格的な調査研究に取り組んだのである。

2. 研究の目的

薄田泣菫文庫の全体像を把握するために正確な資料目録および書誌を作成するというのが具体的な形での目的である。その成果を広く各方面に提供することで、薄田泣菫という存在の再認識を促すと同時に、この成果を媒介として、さまざまな領域からの考察・研究を触発、深化させ、ひいては日本近代文学研究全体の活性化に寄与するというのが本研究の庶幾する最終的な目的である。

ことに資料としてかなりの分量を占めている大阪毎日新聞社学芸部長時代の諸作家（一例をあげれば、坪内逍遙、徳富蘆花、島村抱月、永井荷風、与謝野鉄幹・晶子、高安月郊、有島武郎、広津柳浪、有島武郎、菊池寛、久米正雄、森鷗外、志賀直哉、武者小路実篤ら）からの泣菫宛書簡の調査解析を行うことが研究目的実現のための急務である。この作業により同時代の新聞を中心としたメディアと作家の思惑が交錯する文学生成の現場を具体的に検証することが可能になり、文学およびメディア研究の全般にわたって新たな視角を提供することにつながると考える。

3. 研究の方法

最終的には、薄田泣菫文庫の書誌、および目録の作成と薄田泣菫宛書簡を翻刻編集した宛書簡集の刊行を目標とする。しかし、先に記したとおり目的具体化の第一歩として本研究では、まず書簡をその対象とし薄田泣菫宛書簡の調査・翻刻を進めることとした。またこの方面の研究に造詣の深い浦西和彦、西山康一、加藤美奈子、荒井真理亜を連携研究者に、三宅昭三（薄田泣菫顕彰会会員）をあらたに研究協力者として研究組織に加え協力を仰いだ。

最初に手がけたのは資料劣化を避けるための処置であった。これについては就実大学吉備地方文化研究所が全面的な協力を申し出てくれたことで、大量の原資料は順次デジタル撮影を終えようとしている。この資料を研究者が共通に所持することで資料調査は格段に簡便化されることになった（しかしこの研究のことを知った各遺族から、まだ手許にあった泣菫関係の資料が、倉敷市に次々と寄贈され、現時点では総計2000点に達しているかと思われる。今後とも就実大学吉備地方文化研究所の絶大な協力を仰がねばなら

ないだろう)。

デジタル化による情報の保存・管理は着々と進められているが、ただし書簡翻刻(解読)の作業は困難を極めた。第一にどの書簡も多くは私信ということもあってか、いずれも公式文書とは異なる個性的な書体・文章であり、ほとんどが百人百様のいわゆる崩し字で、これを一読ただちに読み解くことは熟達した古文書読みでも、まず不可能であった。われわれの読解は、文字通り一字一句に突き当たっては何時間も停滞するのが常であった。

また書簡は基本的に私的なものであり、解読には、差出人についての調査および泣菫との当時の関係、周辺事項についての広範な知見が必要となる。研究者は各人、関係資料や関連書籍の購入・複写などにより情報を交換しつつ、それぞれに分担された書簡の読解に心血を注ぐとともに、その書簡の意義をより明確にするよう努めた。

研究組織の中で担当する書簡を分け、効率的に調査研究を行うようにしたが、そうした調査情報を共有交換するため、またデジタルデータでは分かりづらい細かな資料分析を協力して行うため、以下の通り定期的に会合を持ち、薄田泣菫顕彰会の協力も得るなどし、調査・研究の促進を図った。

2011年2月9～12日(倉敷市役所・文化振興課)

2011年8月16～18日(倉敷市役所・文化振興課) 2012年3月18～20日(倉敷市役所・文化振興課)

2012年5月25日(青山学院大学・総合研究所ビル17会議室)

2012年8月22～23日(倉敷市役所・文化振興課)

2012年10月26～27日(倉敷市役所・文化振興課)

2013年3月29～30日(倉敷市役所・文化振興課)

4. 研究成果

薄田泣菫文庫資料の全体は、後述するように、泣菫遺族の篤志により、現在も倉敷市への寄贈・寄託があり、未だ調査整理が完了してはいないものの、資料の翻刻や調査研究は、着実に進んできており、おおよその輪郭が明らかになってきている。それらについては継続的に論文として発表しており、泣菫とその関係する周辺事項を調査分析することで、資料の意義を明らかにしていくとともに、薄田泣菫文庫全体の総合的調査についての成果を積み重ねてきた。

また、倉敷市と薄田泣菫顕彰会の協力の下、倉敷市において薄田泣菫と薄田泣菫文庫の

存在を市民に向けて発信していくような試みも積極的に行ってきた。たとえば5. 主な発表論文等のうち〔その他〕①②③④⑤⑥⑦⑧など、並行しておこなった地域に根差した活動も、ささやかながらローカル紙に報道されたものもあり、本研究の成果のひとつであると考え。こうした地道な作業もふくめて、薄田泣菫文庫の存在とその意義、およびわれわれの研究の意義を、わかりやすく、広範に周知させることができた。

このような形で薄田泣菫と薄田泣菫文庫に注目が集まってきたこともあり、2011年に新たに遺族から資料が倉敷市に寄贈、寄託され、薄田泣菫文庫全体として、さらなる資料の充実をみた。こうした追加資料もあわせ、いっそうの整理調査を重ねることで、薄田泣菫文庫全体が一望できるような資料集の刊行を計画出来るまでに到った(なお「薄田泣菫宛書簡集」は差出人の紹介、書簡の翻刻、解読と解説が基本形態で、年一冊、五カ年で五冊刊行の予定である)。

今後はその内容をさらに精査し、倉敷市および薄田泣菫顕彰会とも緊密な連絡をとりながら、資料集の刊行を目指していくことになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

①加藤美奈子、倉敷市所蔵「薄田泣菫文庫」与謝野晶子自筆歌稿「紫影抄」「萱の葉」他(一) 解題・図版・翻刻、就実論叢、査読有、第42号、2013年2月、p1～17

②加藤美奈子、研究ノート「倉敷市所蔵「薄田泣菫文庫」資料調査をめぐって」共翔、査読無、20号2012年6月20日 p8～9

③庄司達也、三宅昭三、薄田泣菫「久米正雄宛書簡」、「久米正雄「薄田泣菫宛書簡」翻刻——附、久米正雄「牡丹縁」入稿原稿(冒頭)の紹介——、東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部、査読有、19号、2012年3月、p1～13

④加藤美奈子、倉敷市所蔵「薄田泣菫文庫」与謝野晶子自筆歌稿「愈あかりの後」「土ふみて」、就実論叢、査読有、第41号、2012年2月、p29～48

⑤庄司達也、西山康一、芥川龍之介「薄田泣菫宛書簡」翻刻、芥川龍之介研究年誌、査読無、5号、2011年7月、p135～151

⑥加藤美奈子、倉敷市所蔵「薄田泣菫関連資料」与謝野晶子自筆歌稿「秋の薔薇、就実論叢、査読有、第40号、2011年2月、p21～28

⑦ 加藤美奈子、倉敷市所蔵「薄田泣菫関連資料」調査報告、吉備地方文化研究、査読無、第21号、2011年、p207～231

〔その他〕

①資料展示「与謝野晶子未公開の歌稿——薄田泣菫文庫からの発見——」加藤美奈子（連携研究者）・翻刻、展示解説。倉敷市文化振興課、倉敷物語館、2013年4月17日～21日

②庄司達也、矢内直行「蓄音器 SP レコードで聴く漱石、龍之介、泣菫が愛でた音楽たち」主催・「薄田泣菫文庫の総合的調査および書誌の作成」、会場・倉敷公民館大ホール、2012年10月7日

③庄司達也、加藤美奈子
「就実大学図書館セミナー・図書館で地域を学ぶ 第3回」「泣菫が愛でた音楽たち」就実大学図書館、2012年10月6日

④荒井真理亜「名コラムニスト・薄田泣菫——大阪毎日新聞社時代を中心に——」神戸文学館文学講座、2012年10月

⑤シンポジウム「薄田泣菫文庫」からの発見」庄司達也、掛野剛史、西山康一、加藤美奈子、倉敷市主催、倉敷市美術館、2011年8月17日

⑥資料展示「薄田泣菫文庫からの発見—新しく発見された文豪たちからの書簡—」庄司達也、掛野剛史、加藤美奈子、西山康一、翻刻、展示解説。倉敷市図書館、2011年7月30日～8月25日

⑦「就実公開講座 実践コミュニケーション学科「ことばと文化」～薄田泣菫「暮笛集」と与謝野晶子「みだれ髪」～、加藤美奈子、就実大学・就実短期大学、2011年6月18日

⑧「笠岡市民大学教養講座 第5回 詩歌でめぐる岡山文学散歩——与謝野鉄幹・晶子、薄田泣菫ほか——」、講演＝加藤美奈子、笠岡中央公民館、2011年3月26日

【新聞報道】（同種の内容が、いくつかの新聞で報じられたものも多いが出来るかぎり採録する。）

①「文豪たちからの手紙を含む 薄田泣菫宛て書簡680点を親族が市に寄贈」「広報くらしき」2013年6月1日

②「与謝野晶子の歌稿 泣菫に送る 倉敷で展示始まる」「山陽新聞」2013年4月18日

③「母でもあった歌人・与謝野晶子 未発表とみられる短歌発見」「朝日小学生新聞」2013年3月22日

④「小説の神様」新聞連載は苦手…書簡見つかると「読売新聞」2013年3月4日

⑤「与謝野晶子の未発表歌稿16首見つかると「おかやま財界」2013年1月20日

⑥「女性の星 創作の跡発見 晶子未発表？の16首 倉敷の知人 直筆103首所蔵」「朝日新聞」2013年1月10日

⑦「晶子の未発表？16首 直筆原稿倉敷で発見」「読売新聞」2013年1月10日

⑧「晶子 未発表の16首 103首直筆原稿 新聞投稿 倉敷で発見」「毎日新聞」2013年1月10日

⑨「与謝野晶子の未発表？16首 岡山で発見 直筆原稿に103首」「日本経済新聞」2013年1月10日

⑩「与謝野晶子 未発表の16首 倉敷 新聞掲載用、直筆103首」「産経新聞」2013年1月10日

⑪「倉敷の「薄田泣菫文庫」から発見 与謝野晶子の直筆歌稿103首 新聞掲載用うち16首未発表か」「山陽新聞」2013年1月9日

⑫「執筆構想泣菫に相談」「山陽新聞」2012年3月28日

⑬「薄田泣菫宛て新発見書簡シンポ 芥川、鉄幹、秋声研究3人が分析、解説 倉敷」「山陽新聞」2012年8月18日

⑭「薄田泣菫宛て芥川、菊池ら書簡類 1700点写真データに」「山陽新聞」2011年7月28日

⑮「朝日新聞をチクリ…芥川の書簡発見」「産経新聞」2011年5月21日

⑯「芥川龍之介の書簡発見 朝日、パーティーに招かれず 毎日、部長に皮肉たっぷり」「産経新聞」大阪夕刊2011年5月20日

⑰「芥川「朝日」はライバル」「朝日新聞」夕刊 2011年5月20日

⑱「芥川龍之介 未発表の手紙発見 薄田泣菫宛て、岡山・倉敷で」「毎日新聞」東京夕刊2011年5月20日

⑲「芥川龍之介 薄田泣菫宛て、未発表書簡岡山・倉敷で発見」「毎日新聞」大阪夕刊2011年5月20日

⑳「秋声困窮の若き日 現存最古含む4通確認」「北国新聞」2010年9月27日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片山 宏行 (KATAYAMA HIROYUKI)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号：60233756

(2) 研究分担者

庄司 達也 (SYOUJI TATSUYA)
東京成徳大学・人文学部・教授
研究者番号：60275998

掛野 剛史 (KAKENO TAKESHI)
埼玉学園大学・人間学部・准教授
研究者番号：00453465

(3) 連携研究者

浦西和彦 (URANISHI KAZUHIKO)
関西大学名誉教授
研究者番号：20067672

西山康一 (NISHIYAMA KOUICHI)
岡山大学・文学部・社会文化学研究科・
准教授
研究者番号：40448212

加藤美奈子 (KATOU MINAKO)
就実女子短期大学 生活実践科学科・実
践コミュニケーション学科・准教授
研究者番号：80435338

荒井真理亜 (ARAI MARIA)
甲南女子大学 文学部 日本語日本文化
学科 講師
研究者番号：90612424